

# 高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会

私のテーマ

## いろは丸事件の記録(2)



渋谷 雅之

いろは丸航海日記



資料の前半は「坂本龍馬關係文書第一」の内容と基本的に同じである。前半の末尾に「右坂本龍馬關係文書第二ヨリ抜抄」と引用を明記しているが、この資料がもともと伊予史談会から提供されたものであり、「坂本龍馬關係文書第二」の刊行後、伊予史談会が資料の保存を引き継いだといふ推測も可能である。

前回解説した「坂本龍馬關係文書第二」が刊行されてから2年後、「いろは丸航海日記」と表題され、「伊豫史談會」と印刷された原稿用紙に毛筆書きされた資料が伊予史談会により作成された。現在この資料は伊予史談会から愛媛県立図書館に寄託されている(左写真)。その電子複写物が伊予市立図書館に所蔵されているが、こちらには加筆や書き込みがあり、複製資料とは呼べないものである。

(A)は「坂本龍馬關係文書第二」(および「いろは丸航海日記」に記録されている紀州・土佐の応接記録のうち、長崎に移動するまで鞆の浦で行われた交渉の経過をまとめた記録(「記録(B)」と、内容的にはほぼ同じである。ただし、「記録(A)」の書きぶりは「記録(B)」のものと異なり、別人によるものであることは一読してわかる。

この「記録(A)」とほぼ同じ記録(「記録(C)」とする)が山内家史料(幕末維新第六編第十六代豊範公紀)に「備後鞆津ニ於テ才谷梅太郎紀州高柳楠之助等應接筆記」というタイトルで収載され、「良子所蔵文書」とさかれていて、この資料の所在や素性に関する解説は、例によつて

これらは記録に統いて「慶応三年四月廿三日ヨリ(備後鞆津ニ於テ以呂波丸沈没ニ関シ紀藩士ト応接筆記)」(便宜上これを「記録(A)」とする)という記録、この資料は伊豫史談會から愛媛県立図書館に寄託されている(左写真)。その電子複写物が伊予市立図書館に所蔵されているが、こちらには加筆や書き込みがあり、複製資料とは呼べないものである。

これらは記録に統いて「慶応三年四月廿三日ヨリ(備後鞆津ニ於テ以呂波丸沈没ニ関シ紀藩士ト応接筆記)」(便宜上これを「記録(A)」とする)という記録、この資料は伊豫史談會から愛媛県立図書館に寄託されている(左写真)。その電子複写物が伊予市立図書館に所蔵されているが、こちらには加筆や書き込みがあり、複製資料とは呼べないものである。

これらは記録に統いて「慶応三年四月廿三日ヨリ(備後鞆津ニ於テ以呂波丸沈没ニ関シ紀藩士ト応接筆記)」(便宜上これを「記録(A)」とする)という記録、この資料は伊豫史談會から愛媛県立図書館に寄託されている(左写真)。その電子複写物が伊予市立図書館に所蔵されているが、こちらには加筆や書き込みがあり、複製資料とは呼べないものである。

これらは記録に統いて「慶応三年四月廿三日ヨリ(備後鞆津ニ於テ以呂波丸沈没ニ関シ紀藩士ト応接筆記)」(便宜上これを「記録(A)」とする)という記録、この資料は伊豫史談會から愛媛県立図書館に寄託されている(左写真)。その電子複写物が伊予市立図書館に所蔵されているが、こちらには加筆や書き込みがあり、複製資料とは呼べないものである。

これらは記録に統いて「慶応三年四月廿三日ヨリ(備後鞆津ニ於テ以呂波丸沈没ニ関シ紀藩士ト応接筆記)」(便宜上これを「記録(A)」とする)という記録、この資料は伊豫史談會から愛媛県立図書館に寄託されている(左写真)。その電子複写物が伊予市立図書館に所蔵されているが、こちらには加筆や書き込みがあり、複製資料とは呼べないものである。



## 「田中伯爵邸の白い花」

宮川 権一

京都国立博物館の西隣に広瀬さんという方がお住まいである。大変お元気な87歳だ。博物館に縁があつてしばしば訪ねて来られる。今年の3月のある日、小さな六花弁の白い花を摘んで筆者の方へ持つて来られた。されば田中光顯伯爵の家からもたらされた花なのだという。「子供の頃、蒲原の田中を名乗る女中さんから私の家の電話がかってきて私が父親に取り次いだのだ」「それが土佐出身で宮内大臣を務めたことがある田中光顯伯爵のことだ。時々蜜柑も家に送られて来た」とのお話であった。筆者の前の人があの田中光顯と関係があったのかと感概深かつた。



ハナニラの花

京都国立博物館の西隣に広瀬さんという方がお住まいである。大変お元気な87歳だ。博物館に縁があつてしばしば訪ねて来られる。今年の3月のある日、小さな六花弁の白い花を摘んで筆者の方へ持つて来られた。されば田中光顯伯爵の家からもたらされた花なのだという。「子供の頃、蒲原の田中を名乗る女中さんから私の家の電話がかってきて私が父親に取り次いだのだ」「それが土佐出身で宮内大臣を務めたことがある田中光顯伯爵のことだ。時々蜜柑も家に送られて来た」とのお話であった。筆者の前の人があの田中光顯と関係があったのかと感概深かつた。

広瀬さんの尊父は高名な銅鏡研究者の広瀬都異氏である。この都異氏と田中伯爵は古美術品のことでの交流があり、蒲原（現静岡市清水区）にあつた田中伯爵の邸宅青山荘を昭和十年頃に都異氏が訪ねた際、その庭に咲いていた珍しい白い花を京都へ土産に持ち帰り家の前の道路と境目の植え込みに移植したのだといふ。数日後にはそこを訪ねてみると確かに背の低い細い葉の中から写真のような六花弁の白い可憐な花が群れ咲いていた。明らかに人為的な移植の結果である。花の名前にについて広瀬さんは知らないといふことだつた。が、ネットで調べれば「ハナニラ」

の帰化植物であった。明治になつて輸入され、現在では各地に伝播し、特に珍しくはないという。

田中光顯は天保14年、土佐の佐川に生まれ、幕末には田中顕助の名で中岡慎太郎や坂本龍馬の元で志士活動を行つた。昭和14年まで生きて土佐出身の志士らの顕彰活動をおこなつた。龍馬の手紙の調査に行けば田中光顯の跋文をみることがしばしばである。

4月になつて静岡市蒲原で現在青山荘を管理されている会社の方に電話でお願いして確認していただいたところ「青山荘の裏にも沢山咲いていますよ」とお返事と花の写真をいただいたのも面白いところである。

この白い花は静岡から京都に移されて80年を経ても毎年春に咲いてきたのだ。路傍の花にも歴史があるという話である。

## コラム・龍馬のこと

### 「以蔵と龍馬」

宮 英司

岡田以蔵（1838～1865）。土佐勤王党員。名は宜振。変名、土井鉄三。天保九年生まれ。父は香美郡神通寺村（現香美市）の郷士岡田義平で、弟・啓吉宜稔も勤王党員。剣を武市瑞山に学び、安政3（1856）年9月江戸に出て、桃井春蔵に入門し、4年9月帰国。その後、中国地方、九州地方を武術歴遊。文久元（1861）年4月に武市瑞山との約束に従つて江戸に出、8月の勤王党結成時には加盟していたと伝えられているが、のちに名簿から削られている。

「人斬り以蔵」として名を挙げたのは土佐の井上佐市郎や越後の本間精一郎らを次々と暗殺したことによる。しかし、一方では勝海舟の護衛を務め、伏見において勝の危機を救つたりもしている。最後は勤王党への弾圧の下、土佐藩に捉えられ、仲間とともに拷問のち慶応元年閏5月11日、打ち首となり、以蔵だけが梶首とされた。

幕末の志士の多くが写真を残しているが、以蔵と断定できる写真はない。また、墓は高知市薊野北町1丁目の東真宗寺山。高知市の北部環状線沿い。有名な沢田マンションの北側にある。孟宗竹の林の中に父や弟らとともに眠っている。「岡田宜振」と刻まれた墓碑があり、ファンの手によって驚くほど美しく保たれている。

脱線が過ぎるかも知れないが、ドラマ史上のベスト1の以蔵役は萩原健一（大河ドラマ「勝海舟」1974年）だったと思う。佐藤健の以蔵（大河ドラマ「龍馬伝」2010年）も良かったが、もう少し年齢がほしかった…と思う。

龍馬と以蔵。両者はどんな人間関係を編んでいたのだろうか。以蔵が半平太に従わず、龍馬と行動をともにしていたら全く違う人生だったかも知れない。また、近江屋に以蔵が同席していたら、歴史が変わっていたかも知れない…などと考えたりもする。どことなく暗いイメージで描かれる以蔵だが、墓地を訪ねるファンは今も多い。

## “話してみるかよ”

### 「四半世紀」

江上 英治

龍馬記念館がオープンして早25年になる。記念館創設にあたっては龍馬像同様に青年会議所のメンバーを中心とした当時の龍馬を慕う若いエネルギーがあった。

30年位前の柳町通り、夜な夜なメンバーが集まるバーがあつた。『もっと募金が集まるいい知恵はないもんかの〜！』そこでは、そんな話題に終始していた。当時、テレホンカードに始まり、Tシャツや没になったトレーナーまで幅広く収益事業を行つものだった。携帯電話の無い時代！連絡手段は主にポケベルだったのでテレホンカードはよく売れた。Tシャツに至つては県内で苦戦するものの、県外から来る営業社員が私の着ている龍馬Tシャツを見て、『どこで売っているんですか！』『私が売っているんだよ』こんな調子で1週間後には10着位の注文がまとまり、トータルで60着位はさばいたかと思う。「竜馬がゆく」に強く影響を受けた司馬遼太郎世代も、はや還暦を過ぎてしまった。アナログ世代と言われる人々は、今自分のやりたかった事に没頭している方々が多い。ようやく好きな歴史研究の時間が取れるようになったものの『やればやるほど時間が無い』と嘆く先生方もおいでになる。便利なパソコンを使えば知りたいことが即座に検索できる時代ではあるが、足で稼いだ情報に勝るものはない。時代の変化と共に失われていくもの、壊されていくもの、いろいろあるが、博物館として格上げされる新しい記念館には、次世代を見据えた運営戦略が必要であるし、龍馬らしさ！を生かす、民意同調の施策が望まれる。



龍馬生誕150年記念  
テレホンカード

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会  
〒781-0262 高知市浦戸城山 830-25 「桂浜荘」内

TEL (088) 841-0001 FAX (088) 841-0015  
mail:gendai-ryoma@kochi-bunkazaidan.or.jp